

## 1. 研修講師の氏名、専門分野、保有資格、講師経験の有無

氏名：篠原 哲哉

専門分野：電気工学、制御工学、システム・インテグレーション、プラント構築、上下水道・環境システム、エネルギーマネジメント、スマートコミュニティ

保有資格：技術士(電気電子部門、総合技術監理部門)、1級電気工事施工管理技師

講師経験：有 2008年以降、株式会社東芝の水・環境システム技師長、スマートコミュニティ事業統括部統括技師長、東北復興推進室技術統括等の立場で、社会インフラ、水環境、スマートコミュニティ、エネルギーマネジメント、水素利活用等をテーマに講演、セミナー講師、パネリスト、プレゼンテーション等を100件以上実施。2015年10月の独立以降も複数の国立大学で登壇経験あり。

## 2. 研修テーマ

### スマートコミュニティからレジリエンスコミュニティへ ～社会インフラのシステム・エンジニアリング～

## 3. 研修の概要

産業革命以降の急激な世界人口の増加と新興国の経済成長は一次エネルギー、食料、水などすべてのリソースの需要拡大を招いています。これらのリソースは有限であり、既に需要が地球という惑星の供給能力を超えているという説もあります。この歯止めの一つは温室効果ガスの削減であり、パリ協定の掲げる目標は非常に高いハードルとして立ち塞がります。一方で、ビッグデータと呼ばれる情報の蓄積も指数関数的に増大し、この情報を活用して上手にリソースを使うスマートな社会の実現が望まれます。

東日本大震災以降、特にエネルギーを中心にリソースの有効活用を目指すスマートコミュニティの構築が試みられましたが、未だその成果は十分とは言えません。本研修では、スマートコミュニティ開発の今までの考え方や先行例を顧みながら、それらの実現に向けた課題として日本の社会・組織が陥りがちな縦割りの弊害と対策を考えます。

また、価値観の共有に向け、重要な位置にある行政に対する期待を示し、新たな社会的価値観の例としての「レジリエンス」を取り上げ、未来のコミュニティ作りについて提案します。最後に社会インフラ、社会システム自体をエンジニアリングすることの意義とアプローチ手法を示します。

## 4. 研修対象とする職員

地域の環境・エネルギー方針の企画・政策立案に携わる技術系及び事務系職員

再開発プロジェクト、地域活性化、産業誘致・振興等の企画・政策立案に携わる技術系及び事務系職員

## 5. 研修受講により期待される効果

地域の価値向上に向けたプロジェクト組成の手法、組織作りについて知見を得ることができます。また、行政や政策立案におけるエンジニアリング手法の活用についてヒントを得ることができます。